

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	目標達成状況(任意)
1	15	正社員ですべて現場がまかなえていた十年前に比べて現在は派遣社員を入れないことには回らない程、人手不足が深刻である。プロパーの社員には「育てていく」という視点から日頃から教育指導を行っているが、派遣社員にもそれ相当の教育が必要であるとする。	派遣社員に対しても内外の研修等を受講させて組織全体の介護レベルを引き上げるように努める。	この年度末において派遣社員に対して、市の介護初級講座を「Eラーニング」形式で受講させた。本人は公式の介護資格を取ったのはもちろん初めてであるが、社員以外のスタッフに対しても同様の研修の機会をこれからも積極的に取り入れていきたい。	12 か月	
2	12	ここ近年、介護職は「エッセンシャルワーカー」と呼ばれ、社会的地位が向上したように世間では喧伝されているが、実態は昔の3K(きつい、きたない、きけん)から一向に脱していない。	左記の現状は、介護現場に求職者が来ないことでも知られる。そこで当事業所では現有勢力のスタッフの知恵と経験を結集して、どうすれば介護の現場が働く者たちの成長と生きがい実現の魅力あるステージになるかを研究していく。	介護職に付き物の「腰痛」。これまでは「仕方ない」と諦めていたが、「腰痛にならない介護方法と介護器具」の研究に取り組み、福祉用具カタログの中から、ベッドから車椅子に移乗させるときのスライダー(滑り板)とベルト(帯)購入して実際の介護現場で使用している。他にも同様の器具を試してみたい。	12 か月	
3	30	2000年の介護保険制度スタートの時から四半世紀も経つと当時の理念と現実の乖離が随所に散見されるようになって来たのはこれは歴史の必然である。その中でも当事業所は「認知症の人が安心して暮らせる場所」という当たり前のグループホームのあり方を念頭に日々の業務に取り組んで行きたい。	介護のネットワークに囚われずに、社会福祉士、薬剤師、成年後見人等対人支援の専門職の協同プラットフォームの設立が望まれる。	契約している訪問薬局の薬剤師に「薬と健康」の出前講座に来てもらい、高齢者の服薬で特に注意する点をレクチャーしてもらって大変有意義だったと同時に、その薬剤師(30代)からも「お年寄りの生の声が聴けてとても勉強になりました」と感謝された。このような交流の機会はこれからも増やしていきたい。	12 か月	
4					か月	
5					か月	

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。
注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。

サービス評価の実施と活用状況表

事業所のサービス評価の実施と活用状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った(予定である)
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市区町村へ説明し、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標達成に向けて取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他()